

令和6年度 福井特別支援学校 学校関係者評価書

- (問) ・学校評価書の成果と課題への質問やご意見。
・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策への質問やご意見。
・意見交換、全体を通したご助言。

(意見を聞いた方)

平谷こども発達クリニック円山事業所はぐぐみ 所長 高野 幸嗣 氏
福井市湊公民館館長 千秋 英幸 氏
福井県立福井特別支援学校PTA会長、福井県立福井特別支援学校後援会会長

○生徒支援

・今年度の避難訓練についてご質問を受けた。
今年度は水害を想定した垂直避難を実施した。本校は浸水想定区域に当たり、氾濫警戒情報や高齢者等避難の発令を目安に早めの避難行動をとるようにしている。

○学習支援

・地域との交流活動についてご質問を受けた。
今年度は、居住地校交流や湊地区との交流に加え、縦割りの学習活動を年間通して校内で実施した。これらのクラスや学部を超えた交流や地域交流を通して、子どもたちの社会性を育み、地域住民への理解につなげてほしいというご助言をいただいた。

○生活・進路支援

・全般的なご意見を、以下のように複数いただいた。
中学部在学するときから、将来に向けての選択肢や卒業までの進路学習のプロセスが明確になると、保護者が不安にならずに早め早めに進んでいける。
中学部から早め早めに情報を集めて、これと決めなくてもよいとも思う。特別支援学校卒業生が利用する生活介護分野の立場としては、離職や転職などの経験を重ねながら、医療福祉からいろいろな情報をもって、関係者の皆さんと相談しながら決めていくのもよい。

○学校管理・運営

・学校づくりにおいて、自分らしく「いきる」の視点を広げたこと、教職員のなり手が少ない昨今、心理的安全性の醸成を掲げている点に変化を感じる。

全体(総括)

・保護者、児童生徒からもAもしくはB評価を受け、今年度の目標は達成できたのではないかと。保護者の立場としては、子どものことをよく理解してかかわってもらい、進路に関するいろいろな情報をもとに一緒に考えてくれた。
どの保護者も、子どもの将来を不安に思う気持ちは共通している。PTAでは今年度、学校祭模擬店や情報交換会、みんなの会を通して、目標としていた「保護者同士がつながる」に手ごたえがあった。障がいを持つ子どもの親として、子どものことや兄弟姉妹のことも「分かる」と言っているいけないと思う。保護者同士が話し合い、声を上げてサポートをしてもらいながら、子どもたちや保護者の笑顔が増えていくとよいと思う。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

今年度は、学校安全や進路支援、地域生活、学校管理・運営等、各重点目標について広くご意見やご助言をいただいた。来年度は、教科の視点で指導と評価の一体化を図ること、クラスや学部を超えた学習活動をさらに増やすこと、地域活動の場を広げキャリア発達を促がすこと、子どもたちの健康や安全安心につなげる環境づくり、DXを活用して、コミュニケーション支援や会議・情報共有の効率化等に取り組むことを通して、保護者や関係機関の方々とともに、また教職員の協働を追究しながら、自分らしく輝ける子どもの育成を目指していきたい。